

新芽を3枚、丁寧に

加東・三草小で茶摘み

校内の畑で住民と交流



丁寧に茶葉を摘む参加者たち＝加東市上三草

加東市特産「三草茶」を校内で栽培する三草小学校(同市上三草)で14日、恒例の「ふれあい茶摘み」があり、児童89人と地域住民ら149人が緑色に輝く新芽を摘み取った。

茶畑は半世紀以上の歴史があり、現在は同小PTAが主に維持管理し、児童らの学習に生かされている。毎年、茶摘みを通じて地域住民と交流している。

参加者は、先端から3枚の葉までを摘む「一芯三葉」の手法で新芽を丁寧に摘み取った。居住地区ごとに収穫した茶葉の重さを量り、山口、やしろ台、馬瀬の3地区が1人あたり510gで優勝した。全員で摘んだ総重量は67・8kgだった。

三草地区と交流を続ける明石市の江井島コミュニティ推進協議会から4人が参加し、会長の大西功二さん(69)は「新芽がすっと取れる感触を、来年は江井島小の児童に体験させてあげたい」と喜んだ。6年の大西悠斗君(11)は「たくさん取れた。歴史ある茶畑は学校の宝物」と誇らしげだった。(吉田敦史)